

## 総務建設委員会視察研修報告

○日時 平成 26 年 7 月 2 日（水）～7 月 4 日（金）

○研修先 岩手県大槌町

岩手県陸前高田市

宮城県女川町

宮城県仙台市

当委員会では、「市の地震防災対策について」及び「活力あるまちづくりについて」を研究テーマとし、調査研究を進めている。すでに各種団体との意見交換会を開催し、今回は、東日本大震災からの復興状況や被災後の対応などをわが市の防災体制づくりに役立てるよう岩手県・宮城県へ視察研修を行った。

今回の視察では、事前にそれぞれ① 津波対策（防潮堤）について ② 防災高台移転について ③ 災害時の議会对応についての 3 点を「質問書」として提出し、その内容に沿って各担当者と意見交換を行い、併せて現地も視察した。

### 岩手県大槌町

大津波で町の中心部が壊滅的な被害を受け、全町民の 8%に及ぶ 1,284 人の人命が失われた。

現在、海沿いの 6 地区において総額 350 億円の復興予算で防潮堤の整備計画が進んでいた。

その高さや形状、また浸水地域の高台移転などは、「地域住民との話し合いにより、合意を得ながら進めている」とのことであった。

現実的な問題として、わが市の防災対策とは同一視はできないが、いざという時の抜本的な復興計画や地域への対策は参考になった。

### 岩手県陸前高田市

震災により、市の人口の 7.8%である 1,800 人以上の人命が失われた。大変な人的損失を被ったため、国や県、全国の自治体から職員の派遣を受けるなど、市役所と議会が一体となって復興に取り組んでいる印象を受けた。

防潮堤については、沿岸の各地区で話し合いがもたれ、地域の実情と要望に沿った高さが設定されていた。防災集団移転促進事業は、集落や地区住民の合意のもと、被災住宅 5 戸以上まとまったの移転が進展中であった。

### 宮城県女川町

平成 30 年までに 2000 億円もの復興予算が投じられている状況であった。津波による浸水が予想される住宅地は高台に集団移転し、公共施設などは基礎からの嵩上げが基本方針ということであった。

防潮堤について、10m 以上のスーパー堤防は、町全体としては反対し、代わりに海岸沿いの国道に盛土を施し、レベル 1 の津波を食い止めるという新しいまちづくりの方針・計画のもとに復興事業が急ピッチで進んでいた。

## 宮城県仙台市

東北唯一の政令指定都市として、被災者の生活再建支援、多重防御を取り入れた津波防災対策、住宅再建、復興土地区画整理、復興公営住宅の整備事業が迅速に進められていた。

土地区画整理事業以外は5年間で実施し、平成28年度中には終了するということがあった。

災害時の議会対応については、平成25年2月に「仙台市議会災害対応指針」を策定。その中で、当局への必要な協力や支援、国や県へ、バックアップの要請を行うことなど「基本姿勢」をまとめている。また、全議員に「災害時連絡先確認カード」を配布し、非常時には議会事務局への連絡を義務づけていた。



計画盛土の高さが示された公共施設（大槌町）



大量の土砂を運搬するベルトコンベアー  
（陸前高田市）



復興計画についての説明（女川町）



造成が進む町のように（女川町）